

# The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、  
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、  
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

**K** 公益財団法人  
**かめのり財団**  
Kamenori The Kamenori Foundation

## 中学生交流プログラム

インドネシアの中学生が日本の中学校を訪問。授業への参加や給食と一緒に食べ、交流を深めました。



京都では着物を着用して茶道のお点前を体験



2015年3月 No.18

## 今号の内容

- ◇ かめのりフォーラム 2015  
ゲストスピーチ  
体験発表  
かめのりセッション  
第8回かめのり賞表彰式
- ◇ 第6回中学生交流プログラム (受入)
- ◇ 高校生短期交流プログラム  
「違う」って楽しい!! -中国・韓国から高校生来日
- ◇ 講演会  
茨城県で王敏理事講演会開催
- ◇ 高校生交換留学プログラム  
留学は夢への翼となった -長期受入生帰国
- ◇ かめのりコミュニティ仲間からの便り (特集号)

## かめのりフォーラム 2015

### 中学生から大学院生、そして関係者が一堂に集い開催

2015年1月9日(金)に「かめのりフォーラム 2015」をアルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)にて開催しました。約120名の関係者と弊財団が支援する交流プログラムなどに参加した中高生や大学院奨学生(以下、かめのり生)が一堂に集い、第一部は、第8回かめのり賞表彰式、かめのり生による体験発表とゲストスピーチを、第二部では、かめのり生全員が自己紹介を行いました。その中でインドネシアを訪問した中学生は「他の国の人と交流することは

楽しいことだと感じた」「一緒に貴重な体験をした仲間はかけがえのない友人となった」との発表で、時に感嘆の声や笑いが起こり、和やかな雰囲気の中、関係者とかめのり生との温かな交流の時間が過ぎていきました。

翌10日(土)は、かめのり生それぞれが体験を振り返る「かめのりセッション」を行いました。かめのり生同士の仲が深まり、新たな友情も生まれました。



「かめのりフォーラム2015」については、次ページで詳しくご紹介します。

## かめのりフォーラム 2015

第一部は、来賓の公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟の野口 昇 理事長より、「本年は、戦後70年、ユネスコ創設70周年にあたり、『戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない』とのユネスコ憲章のもと、ロンドンでユネスコが誕生した。ユネスコ憲章の理念に共鳴した人々により、日本の仙台で世界最初のユネスコ協会が誕生し、この運動がアジアそして世界へと広がっていった。日中韓の厳しい関係が続く中、アジアを分母に日本を分子に考え、弊財団と行った“高校生カンボジアスタディツアー”などの活動を通じて若者の相互理解を深めていきたい」とのお言葉をいただきました。また第二部では、独立行政法人 国際交流基金の亀岡 雄 上級審議役から、「今後も東南アジアの中等教育レベルの日本語教育について共に考え、活動し、相互交流や人材育成に努めていきたい」とのお話をいただきました。



来賓挨拶  
(公社)日本ユネスコ協会連盟  
理事長 野口 昇氏

来賓挨拶  
(独)国際交流基金  
上級審議役 亀岡 雄氏



### ゲストスピーチ

## あなたの仕事は「誰を」幸せにするか？

医療法人社団 KNI 理事長  
北原 茂実氏

今日、憎しみの連鎖は新たな戦いを生み、貧富の差が一層拡大して世界は崩壊の危機に瀕している。混乱の責任の多くは、植民地化により世界中で収奪行為を繰り返した欧米諸国にあり、今まさに彼らはその報いを受けようとしていると私は感じるが、日本人の多くは安閑として、世界には少子高齢化以外の脅威が存在することにすら気がついていない。その中で、今回は未来を担う若い皆さんに、従来の欧米の思想に代わりうる新たな価値観を育て、よりよい世界を築いて頂くべく、医療に止まらない私の想いを語らせて頂いた。

私が自分の夢を形にするため、東京都八王子市に最初の病院を建設してから既に20年が経つ。普通の人々は、医療を「病院という

箱の中で、専門家が有料で医療技術を提供すること」と捉えがちだが、私はそれを「人がより良く生きてよりよく死ぬための全てをプロデュースする総合生活産業」と位置づけ、実は農林水産漁業から教育、ITインフラの構築、最終的にはお葬式までがその仕事だと考えている。そして医療こそが壊れ行く世界を立て直す鍵であり、その分りやすいモデルの構築が私たちの仕事だと信じている。

現在八王子市では、世界の範たるシステムを創るため、少子高齢化に耐えうる新たな医療提供体制の構築、未来の医療に必要な技術の開発、市民やカンボジアをはじめとする途上国の若手医療者や患者を巻き込んでの「医療と教育の国際都市」づくりなどを手掛けている。その一方、

東北は東松島の被災地や東南アジア諸国では、単に病院や医療技術者養成校を創るだけでなく、そこを拠点とした社会システムの構築や産業の育成をも手掛けている。施しでは人も社会も救うことはできず、全ての人々が誇りをもって自分自身の足で立ち、医療のもつ所得の再分配機能などを最大限に活用して、真に市民のためになるような経済社会を構築していくことこそが大切と信じるがゆえの活動である。

かつて欧米人は夢と冒険を追い求めて命がけで七つの海に進出し、良し悪しは別として世界を我が物にしていった。一方現在の日本人は、八方塞がりの現状の中でありながら、立ち上がって自分のために、そして世界のために戦う気概を忘れていた。皆さんにはどうか失敗を恐れず何事にも挑戦してみる開拓者魂を持ち続けて欲しい。また、夢は必ず実現すると信じ、崩れ行く古い価値観を超えて世界を救えるような人材に成長して頂きたい。





第二部では、関係者とかめのり生との懇談。かめのり生はひとりひとり自己紹介をしました。

## 体験発表

高校生2名と大学院生が発表しました。高校生交換留学プログラムで日本に留学中の長期受入生は、楽しいことも大変なこともあったなかで学んだことのひとつが、他の人と支え合い、助け合うことで生まれる絆、それが世界の相互理解に一番大切だということ。今後、日本とインドネシアの架け橋になるために絆をしっかり築いていきたいと語り、周囲への感謝の気持ちと同世代には夢をあきらめずになんかしてほしいとの言葉を贈りました。カンボジアへのスタディツアーに参加した高校生は、ユネスコの寺子屋活動の見学や遺跡保全・修復体験を通して、自分の目で見て感じたことを広く伝え、現状を多くの人に知ってもらうことの重要性を認識し、将来は発展途上国の教育支援をしたいとの夢を語ってくれました。大学院生からは、奨学生に採用され、研究に集中して取り組むことができ、さらに研究分野の異なる仲間と兄弟姉妹のような存在となり、お互いの研究について熱く議論し切磋琢磨する出会いができたことが日本留学で得た大きなことのひとつとの発表がありました。



体験発表やゲストスピーチに熱心に耳を傾ける関係者



## かめのりセッション

翌1月10日には、かめのり生が参加したプログラムごとに分かれ、お互いの体験を共有しました。長期受入生は、言葉や習慣の違いに感じ悩みながらも、多くの人との出会いから相手を尊重し、理解しようとする姿勢の大切さを学び、人の話を聞き理解しようとする努力することの重要性に気が付いたとの話があり、それぞれが自分の成長を感じていました。短期派遣生は、一緒に参加した仲間やホストファミリーとの楽しい思い出のほかに、「違う国の文化をもっと体験してみたいので、これからも積極的に交流プログラムに参加したい」、「これからも日本だけを見るのではなくもっと海外に興味を持っていきたい」と今後の目標もあげました。スタディツアーのグループは、不自由なく勉強できることへの感謝の気持ちを忘れない、小さい時から平和教育に触れることが必要だと感じた振り返り、今後もこのグループで活動を続けていきたいとの抱負を語りました。最後に、大学院生によるパネルディスカッションでは、留学の先輩である大学院生から中高生へのメッセージとして、まず相手のことや異文化を「知る」ことが大切であり、争いを避けるためには多くの国の人と友だちになることが一番いい方法であること、さらに、「やりたいことを思い切ってやってみよう!」とのエールも送りました。



毎年1月に開催している本フォーラムは関係者同士の再会の場にもなっています。体験発表では、留学経験で感じたことを丁寧に語るかめのり生に来賓の方々から大きな拍手がおくられました。弊財団の木村晋介理事長は、「他者の考えを認め合うことの大切さ」を開会の挨拶としました。

康本評議員「あきらめず挑戦することが大事」とかめのり生へメッセージ



かめのりセッションでは、自分たちの体験を振り返りながら今後の抱負も語り合いました。

## 第8回かめのり賞表彰式

9つの団体の授賞が決定し、正賞の楯と副賞の活動奨励金を贈呈しました。

選考にあたり、高く評価された点は次のとおりです。

- ① これまでの活動歴、活動内容とその成果
- ② 活動自体に独自性を持ち、他にない取組みをしていること
- ③ 他団体との有機的な連携や協働、地域やボランティアの人々と共に活動し、継続的に自立、発展出来るような仕組みを作っていること
- ④ その活動が社会の必要性に合致し、将来を見据えた事業展開を考えていること

また、アジアを中心とした活動や青少年を主眼とした交流や人材育成であるか、また支援する側と支援先が直接交流する活動をしているかという点にも着目し、選考しました。



表彰理由を刻んだ記念の楯と活動奨励金を康本健守評議員より贈呈



### 第8回かめのり賞 表彰者(敬称略)

#### 特定非営利活動法人 多文化共生教育ネットワークかながわ



神奈川県において、「日本語を母語としない人たちのための高校進学ガイダンス」をはじめ、外国につながる子どもたちの教育支援や交流を通じて、地域と連携しながら、長年、多文化共生社会の構築に多大な貢献。

#### 小さな美術スクール



カンボジア・シェムリアップを拠点に、無料の美術スクールや日本語教室をはじめ、生活困窮家庭の子どもたちの教育支援を通じて、子ども達の可能性を引き出し、次世代の文化の担い手を育てることに寄与。

#### 認定特定非営利活動法人 地球の木



神奈川県において、ネパールやカンボジアを中心に、少数民族や貧困家庭の少女たちの自立支援のための識字教育や職業訓練、そして海外支援の経験を生かした国内の地球市民教育を通じて、地域に根ざした国際協力の推進に多大な貢献。

#### 特定非営利活動法人 新潟国際ボランティアセンター



ベトナムを中心に開発途上国の人々と新潟をつなげ、小学校建設、大学生への奨学支援や障がい児の生活支援、また国内での地球を知る講座を通じて、長年、地域の市民活動を活性化し、国際協力に多大な貢献。

#### 認定特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター



日・タイの若手の農民リーダー交流プログラムをはじめとする研修を通じて、それぞれの国や地域で社会の変革を望む人々の草の根の「学び合い」と「交流」の場をつくり、その実践を支える活動により、長年、国際協力と人材育成に大きく貢献。

#### 公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会「女性の家 HELP」



女性や母子の人権のため、日本で草分け的なシェルター活動と多言語電話相談、また積極的な啓発活動を行い、長年、アジアをはじめとする外国籍の女性や母子の支援と課題解決に向け、多大な貢献。

#### 特定非営利活動法人 ニランジャンナセワサンガ



すべての人々がともに生き、ともに学べる社会づくりの実現を目的に、インド・ビハール州を中心に、貧困層の子どもたちへの学校教育の提供、孤児院の設立・運営や女性への職業訓練を通じて、国際協力と人材育成に多大な貢献。

#### 特定非営利活動法人 みんなのおうち



東京都新宿区において、アジア諸国にルーツを持つ子どもへの日本語指導と学習支援教室、新潟での自然体験や日本人との交流を通じて、地域社会を活性化し、多文化共生社会の実現のために大きく貢献。

#### NGO ユイメール



世界中の子ども達が自尊心を持って暮らし、自己実現を目指す社会の実現に向け、モンゴルを拠点に、孤児院の運営支援、音楽による独自プログラムの実施や奨学事業を通じて、孤児院の子ども達の自立支援に多大な貢献。

昨年の表彰者の活動報告も展示





## 第6回中学生交流プログラム（受入）

インドネシア共和国デンパサール（バリ島）のサント・ヨセフ中学校から7名の中学生と引率教員1名、計8名が2014年11月9日から17日までの9日間、（一社）国際フレンドシップ協会の実施による中学生交流プログラムで来日しました。

### 「日本にとけ込んだインドネシアの中学生たち」

報告：一般社団法人国際フレンドシップ協会 プログラムマネージャー 小林雄一氏

一行は羽田空港に着いた時から目を輝やかせながら研修に入りました。浅草を訪問すると折しも七五三で着物姿の子どもたちに日本の伝統文化を学び、原宿に行くと、道をうめる若者の様子や服装に現代文化を感じ、地下鉄の自動販売機での切符購入など、驚きの連続の初日でした。

翌日は日本事情オリエンテーションで「習慣や生活」を学び、シャワーしか浴びない生徒たちはお風呂の説明に声をあげ、電車で日本中を旅できると知り驚きました。質問も積極的で、「昨日見た、石のお人形（地蔵）はなぜ赤い服を着ているの」、「トイレはみんな自動ですか」等、何にでも興味を示しました。

駐日インドネシア大使館では、ウィダニ・サユオカー等書記官のお話に「外交官になるにはどうしたらいいですか」、「日本に留学に来たいです」と聞く生徒もいました。

楽しみにしていた中学校訪問は、国立大附属中学校と公立の中学校で校内の見学、給食、授業参加と盛りだくさんのプログラムに笑顔が絶えず、1人でも多くの日本の生徒と話をしたいという様子でした。

都内の企業訪問では日本の技術力に感嘆し、京都への1泊旅行では、友禅染をしたり、着物を着つけてもらい茶道に挑戦し、神社仏閣をめぐり、日本の歴史も学びました。

東京に戻り2泊3日のホームステイでは、1人1家庭で過ごしました。各家庭の普段の生活にとけ込み、お風呂もはじめての体験でしたが、熱かったと話しながらも嬉しそうな笑顔。皆口々に家庭の食事は美味しいと語り、それぞれ家族の一員として受け入れてくれたホストファミリーに感謝して、涙のお別れでした。帰国後もすでにEメールなどで交流は続いています。



地下鉄に乗って浅草へ。初めての地下鉄に少し緊張気味



京都では茶道のお点前を習い（左上）、中学校では化学の実験と書道にも挑みました！



（左）全員が楽しみにしていたホストファミリーとの出会い  
（下）駐日インドネシア大使館表敬訪問



## 2015年度 募集のご案内

※詳細は募集開始時にホームページにて発表

### 講演会開催団体

弊財団の王敏（ワンミン）理事（法政大学国際日本学研究所教授）による「異文化理解の必要性」を主なテーマにした講演会の開催団体（高校、大学、国際交流団体など）を募集します。

宮沢賢治や日中比較文化の研究に長年携わっている経験をもとに、日本と中国や韓国の交流の歴史や日常生活の中にある中国の文化などにも触れながら、異文化を知る楽しさや相互交流の必要性をお話していきます。

### 国際交流事業助成

日本とアジア・オセアニアの若い世代の相互理解や友好関係を深めるための交流や架け橋となるグローバルリーダーの育成を目的とする事業に助成します。

対象となる事業は、日本とアジア・オセアニアの若い世代が中心となる、①日本語及びアジア言語教育事業、②青少年交流事業、のうち、特に独自性、発展性のあるものとします。助成決定後は、助成を受けるにあたってのワークショップに参加してもらいます。

### 第9回かめのり賞

日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰します。

対象は、①国際交流・協力にかかわる活動、②多文化共生にかかわる活動、③国際貢献に携わる人材を育成する活動、を行っている個人・団体となります。

表彰者には本賞の盾と副賞の活動奨励金を贈呈します。これまでに6個人、64団体を表彰しました。

## 高校生短期交流プログラム

### 「違う」って楽しい!! -中国・韓国から高校生来日

「日本と韓国をつなげていきたい」「剣道をやってみたい」「日常の会話を学びたい」とそれぞれの想いを胸に抱き、1月に中国と韓国から10名の受入生が(公財)YFU日本国際交流財団のプログラムで来日しました。約1ヵ月間、ホストファミリーとの生活や高校通学を通して、日本語だけでなく生活様式や習慣を学び、同世代と交流し、自国とは異なる家庭の様子、学校の授業や部活動を体験しました。ホストファミリーとは、一緒に買い

物に出かけ、お手伝いをしたり、学校では、クラスメイトと机を並べ授業を受け、昼休みや放課後は友だちとおしゃべりをする事で、日本語の勉強にもなりました。

違うことを知ることや交流することの楽しさを実感して、たくさんの思い出ができました。自分自身が感じた“ナマ”の日本を周囲の人々へ伝え、出会った人々との交流をこれからも大切にしていきたいことを願っています。

約200名の方が聴講「日中交流の原点を学んだ。身近な例をあげわかりやすかった」との感想をいただきました



## 講演会

### 茨城県にて王敏理事講演会開催

1月26日(月)、茨城県水戸市にて行われた茨城県日中友好協会新春交流会にて、「日中友好促進の展開 一日中首脳会談を契機として」と題し講演会を行いました。

茨城県で日中友好のために尽力されている方を対象に、まず、これまでに王敏理事が会った茨城県での中国とのかかわりのある事柄について、水戸光園、朱舜水、偕楽園の好文亭等を挙げ、古来より日中間での人々の行き来があり、文化を共有してきたことを紹介しました。今後は、日中双方向中心の交流・理解、教育・人文交流の深化、食を中心とした生活者としての互惠関係、日中の共通の漢字をもとにした地域の再発見を考え、冒頭に紹介した茨城県にある日本と中国との豊かな背景を活用しながら、両国の人々が微笑むような交流・関係が展開していくことを心から願っていると締めくくりました。



来日時に日本滞在中の目標を書いてもらいました-韓国(左)、中国(右)からの受入生

## 高校生交換留学プログラム

### 留学は夢への翼となった-長期受入生帰国

昨年3月に来日したアジアからの受入生が、2月初めに無事に帰国。帰国前に行われた懇談では、これからの目標や留学で得たことを発表しました。「この1年は決して楽ではなかった」と受入生全員が多くの困難に直面しながらも、「失敗から自分を見直すことの大切さを学んだ」「人々との出会いで、約束を守る、責任をとる、うそをつかないことを学んだ。小さなことと思えるこれらを守ることで大きな人間になれると考える」「コミュニケーションの大切さを痛感。これが将来の夢への大きな助けとなる」と話してくれました。日本語も上達し、困難を乗り越え自信をつけた8名の受入生は、満面の笑みで「2番目の家」となった日本をあとにしました。



「大変なことを乗り越えよく1年間頑張りました」と西田事務局長からの言葉もありました

### 今後の予定

- 3月 【高校生長期】第9期受入生来日
- 4月 大学院留学アジア奨学生 新奨学生授与式・交流会
- 5月 国際交流事業助成 募集開始
- 6月 第9回かめのり賞 募集開始

### ≪ 編集後記 ≫

周囲とのコミュニケーションのとり方に悩み、日本の家庭での細かなルールの理解ができず大変な思いをした受入生。ホストファミリーや学校の先生、友だち、地域のボランティアの方の惜しみない力添えがあって充実した1年を送ることができたことに感謝するとともに、受入生もいくつかの壁を乗り越え、迷いながら頑張ったことを心から褒めたい。(菊地)

発行人 / 西田 浩子、編集 / 菊地 佐智子  
デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)  
印刷 / 佐伯印刷株式会社

【お詫びと訂正】前号 No.17 国際交流事業助成の「助成事業一覧」の学生団体 HaLuz の事業名に誤りがありました。正しくは「日本、東ティモール学生交流事業」です。お詫びして訂正します。



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します!

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/